

(1) 事業講師より

山ノ内 麻美 講師

7月のイングリッシュアドベンチャーは、小学校6年生を対象に、大自然に囲まれた赤城青少年交流の家の環境を生かした、アウトドアアクティビティを英語で体験するプログラムである。教室で学ぶ英語とは一味違った、まさに生きた英語にあふれた2日間であった。

初日は、森林の中に隠されたピザの具材を探す「スカベンジャーハント」から始まり、グループごとに食べたいピザをデザインし、実際に生地から練って、ドラム缶で焼く「ピザ作り体験」、そして夜は、キャンプにはお決まりの「キャンプファイヤー」を行った。最終日の2日目は、子どもたちの紹介したい街についてポスター・プレゼンテーションを行った。全ての活動では共通して、最初に子どもたちに使って欲しい英語表現を導入し、練習をしてから、子どもたちの活動に移った。英語が好きな子どもたちが多く、子どもたちは最初から大きな声で英語を練習し、積極的に英語を使おうという姿勢が見られ、大変感心した。初日の終わりのキャンプファイヤーでは、「英語の歌知っている人?」と子どもたちから、歌を歌う提案があり、その中で、London bridge is falling downを歌い、キャンプファイヤーを囲んで、思いつきり笑ったことは、きっと彼らの思い出にも鮮明に残っているであろう。最終日のポスター・プレゼンテーションでは、自分の街について学習した英語を使って、一生懸命伝えようという姿勢が見られた。まだ英語学習を始めて間もない子もいる中、英語での質疑応答にも挑戦し、かなりのチャレンジだったと思うが、どの子も真剣な眼差しで、最後まで諦めずに向き合った姿勢に心から拍手を送りたい。

全ての活動を終え、2日間のまとめで子どもたちに覚えていた英語を聞いた際、次から次と手が挙がり、大人が覚えていないような細かいことさえ、全て覚えていた子どもたちの様子は、講師として大変嬉しかった。

日本のような環境では、習った英語をすぐに使うという体験はとても貴重である。さらに、アウトドアと英語と一緒に体験できるという機会は、児童期にふさわしい全身を使った学習につながり、全感覚を研ぎ澄まされた、学びにあふれた2日間になった。

David Carolan 講師 (ALT)

Thank you for giving me the opportunity to work at the English Adventure camp. I really enjoyed the experience.

I felt that the camp was a success, thanks to the effort and cooperation from all the staff and volunteers. The activities and lessons worked very well and the children seemed to enjoy them. We had ample time for meetings to prepare for the camp and I felt this was very important to make sure that everything was well organised and ran smoothly.

The grammar points and new vocabulary we used in the activities were very relevant to what is covered in the 5th grade elementary school English curriculum. I felt the activities were fun and challenging for the children, without being overly difficult.

The ice breaker activities worked very well to help the children feel comfortable in their surroundings and interact with the teachers and other children. This made it easier for them to settle in and make friends within their groups.

While making the pizzas, the children could express a lot of creativity, as well having the opportunity to interact with the teachers and use English as a pro-active tool for communication.

The camp fire games, songs and activities were very well received by the children also, and most stated this part as their favourite part over the two days.

The two days culminated in the final buffet restaurant skit. The students were well prepared and were capable to completing the challenges well. They could perform the tasks competently in front of their onlooking families.

All in all, I believe the camp was a great success and a very enjoyable experience for everyone involved.

Thank you once again for the opportunity to participate in this event, and I'd be more than happy to be involved in any similar event in the future, if you require my assistance in any way.

Jaime Ota 講師 (ALT)

I had a wonderful time working with the children, staff, and volunteers at the English Adventure program, and I am so glad to have had the opportunity to help plan and execute it. It was great to see the children work together and do things in English that they normally don't have a chance to in their daily lives. They were shy at first, but they all quickly became friendly, and it made me happy that they talked to me and asked me many questions during meals.

Also, I was very impressed with their eagerness to learn and use English! They did extremely well the second day during the English Restaurant activity, and I think having their parents join was a great opportunity for the children to show what they learned and gain confidence. I think it was good that we repeatedly used the same set of expressions “What would you like?” “I'd like ” “Here you are.” for almost all the activities, too.

I had a great time working with the staff and volunteers too. While it was hard to find time for meetings, I am glad we had them so we the instructors understood the program. Also, I am thankful that the staff and volunteers were open to our ideas about activities, and that the other instructor was another Maebashi ALT. I think the staff, volunteers, and instructors had great teamwork! However, I would recommend for the future that at least one of the instructors be fluent in Japanese.

Thank you for the wonderful opportunity!

今回のイングリッシュアドベンチャーでは、子供、スタッフ、ボランティアの皆さんとともに充実した時間を過ごし、プログラムの企画と実施のお手伝いをするのができ、嬉しく思いました。日常ではなかなか出来ない活動を英語で協力しながら取り組む子供たちの姿が見られて良かったです。最初は恥ずかしがっていた子たちも結構早く打ち解け、食事などの時に色々話をしたり質問をしてくれたりしたことが嬉しかったです。

また、子供たちが英語に対して積極的で、感心しました。2日目のイングリッシュレストランの活動のできがとても良かったですし、保護者が参加し、子供が自分の学んだ英語を披露することで、自信をつけることが出来たのではないのでしょうか。そのためにも、プログラム中のほぼすべての活動で同じ表現 “What would you like?” “I'd like” “Here you are.” を繰り返し使用したのは良かったと思います。

そして、スタッフとボランティアの皆さんともスムーズにお仕事ことができました。皆忙しいので打ち合わせの時間を決めるのは少し難しかったですが、打合せを通して講師としてプログラムを良く理解することが出来ました。また、スタッフとボランティアの皆さんが講師のアイデアなどを聞いてくれたこと、そしてもう一人の講師も前橋のALTだったことをありがたく思っています。スタッフ、ボランティア、講師でとても良いチームワークを発揮することが出来たと思っています! 一つだけ言うのであれば、最低一人、日本語が流暢な講師がいた方がチームワークを発揮しやすいと思います。

貴重な体験の機会をありがとうございました!

(2) 推進委員より

「イングリッシュアドベンチャー」における活動体験の意義
群馬大学 教授 上原 景子

平成30年度国立赤城青少年交流の家イングリッシュアドベンチャーは、2020年度全面実施の小学校新学習指導要領「外国語活動」「外国語」の目標と内容を踏まえ、小学生が英語を意思疎通の道具として使う実体験の機会設営を趣旨とする社会教育事業である。ここでは、推進委員として多くを学ぶ機会を得たことに感謝の意を表すとともに、本事業の意義を有識者としての立場から考えてみたい。

まず、外国語習得に関わる意義であるが、日常生活で英語を使う「第二言語習得」の自然な環境とは異なり、英語を日常使わない日本では教室内学習に留まる「外国語学習」であるため、今回参加者が得た教室外・学校外で様々な人々との英語を用いた意思疎通の機会は非常に重要である。特に、英語でしか通じ合えない講師との意思疎通を図るため、初めて出会った他の参加者と協力し合いながら英語を駆使する必然性を自然に設営していることが注目される。加えて、本事業は国立赤城青少年交流の家の施設の特徴を生かし、教室内では設定できない身近で自然でかつ興味深い英語使用の体験的場面を、野外活動を中核に展開している。これは、英語を使う必然性と自然な場面の設営が困難な外国語学習でも、参加者に強いインパクトと気づきの機会を与えうる。

次に、新学習指導要領に基づいての社会教育施設での事業実施に関し、その意義を考えたい。第二言語習得の研究では、インプット(学習者が聞く読む英語)のレベルは、容易に理解できるものであることが重要とされている。たとえ分からない単語があっても、その他が分かれば文脈や場面から推測できる。本事業の英語活動が新学習指導要領の目標と内容に基づくことは、参加者の発達段階を十分考慮した目標と身近な題材・言語材料を取り入れた活動が行われることに他ならない。社会教育事業では必ずしもその必要はないとはいえ、本事業での英語活動が新学習指導要領に根差したことは、移行措置期間であることから意義があると言える。

以上から、今回のイングリッシュアドベンチャーは、小学生が英語を楽しく自然に使う機会を提供した意味ある事業と言える。

本事業の企画と実施に携わったスタッフ・講師の方々、参加者の小学生の皆さんと保護者の方々、貴重なコメントを寄せてくださった保護者の皆様に心から感謝するとともに、こうした事業が全国に広まることを願う。